

さいたま市文化財時報

かや
榎りぼーと

第57号

平成26年度新指定文化財

さいたま市教育委員会は、平成27年3月31日付けで、「^{いわつき}「岩槻の古式土俵入り」^{こしきどひょういり}」^{ささくほちく}笹久保地区の^{てんまく}天幕」の1件をさいたま市の有形民俗文化財として指定しました。

これにより、市内に所在する市指定文化財は444件、国・県指定を含めた総件数は528件となります。また、この他に市内には6件の国登録有形文化財があります。(平成27年4月1日現在)



▲「^{いわつき}岩槻の古式土俵入り」^{こしきどひょういり}」^{ささくほちく}笹久保地区の^{てんまく}天幕(平成22年撮影)

●さいたま市の新指定文化財(平成26年度)

| 種別 | 名称 | 員数 | 所在地 | 所有者 |
|---------|-------------------------|----|-------------------------------|--------------------------|
| 有形民俗文化財 | 「岩槻の古式土俵入り」 笹久保地区の天幕 | 1張 | さいたま市岩槻区大字笹久保 810(篠岡八幡大神社) | 笹久保の古式 子ども土俵入 り保存会 |

新指定
**有形民俗文化財
「岩槻の古式土俵入り」 笹久保地区の天幕**

国指定重要無形民俗文化財「岩槻の古式土俵入り」のうち、笹久保地区で行われる土俵入りの公開時(偶数年)に、土俵の上部に張られるものです。十五枚笹の紋と「武芻崎玉郡笹久保村氏子中」、「天保十一子年八月吉日」銘及び世話人17人の名前が染め上げられています。天幕の製作者は不詳ですが、天保11年(1840)8月に製作されたと推測できます。

平成25年度に、生地の詳細な調査・分析を行った結果、生地は木綿の可能性が高く、笹の紋と年号は藍染めで表面は型糊置きと手糊置きの混合、裏面は手糊置き、世話人の文字は墨黒で表面からの型刷り込みによるものと推定されました。

天幕が製作された天保11年の2年前、天保9年に刊行された斎藤月岑著『東都歳時記』には、当時の本所回向院を第一の場所として行われた勧進相撲の人気ぶりが記されています。また「江戸両国回向院大相撲之圖」(『日本相撲史』口絵)にも、その盛大な興行の様子と華やかな賑わいが描かれています。同圖其二には「棧敷」と記された絵があり、天幕が描かれています。しかし、これが土俵上に掛けたものか棧敷上に掛けたものか定かではありませんが、天幕が覆っていた可能性が高いものです。東両国元町で明治40年頃行われた相撲興行の折には、川風が強く、人夫が天幕を押さえたという記録があります。

天幕製作当時の江戸では、本所回向院を第一の場所として晴天十日の相撲興行(雨の日は中止)が盛大に行われていました。回向院には明治42年常設の国技館が建てられ、現在の大相撲へと繋がります。

江戸期の年号が明記されている相撲天幕は全国的にも極めて珍しく、相撲人気に沸く江戸に近く、譜代の藩であった岩槻において、江戸期天保11年と明記された相撲天幕が現存していた意義は大きく、貴重なものです。

「岩槻の古式土俵入り」の行われる笹久保地区の氏神・篠岡八幡大神社では9月に秋祭が行われます。2年に1度、子どもたちの健やかな成長を願って、5歳児から小学校6年生までの男子が、年少者から順に、型による土俵入りを披露します。土俵入りのみを実施する行事は、県内では市内岩槻区の笹久保と釣上で見られるのみであり、その希少性から、平成17年に、重要無形民俗文化財の指定を受けています。

なお、祭当日は、土俵の上に4本柱を立て、その上に天幕を広げます。



▲土俵場に天幕を広げた状態(平成22年撮影)

TOPICS
●さいたま市新指定文化財の指定書交付式を行いました

平成27年3月31日付けで指定した「岩槻の古式土俵入り」笹久保地区の天幕について、平成27年4月21日(火)、さいたま市役所9階応接室において、所有者笹久保の古式子ども土俵入り保存会に指定書を交付しました。



▲前列中央、右が保存会代表遊馬会長と中村氏

●笹久保地区の天幕の復元新調をしています

笹久保地区の天幕は、行事を行ううえで欠かせない要素です。しかし、き損箇所が多く、生地の劣化も目立つなど、今後の使用に耐えられなくなっていたため、復元新調が急務でした。そのため、学識経験者等で組織する「天幕復元新調事業専門委員会」を設置し、検討を重ねた結果、平成26年度からの継続事業として、現在も天幕の復元新調を行っているところです。なお、この事業は国・県・市が補助金を交付して実施しています。

新しい天幕は、奇しくも指定を受けた天幕に明記された月と同じく今年の8月に完成予定で、公開は平成28年秋を予定しています。

●馬場小室山遺跡が埼玉県史跡に指定されました

さいたま市指定史跡「馬場小室山遺跡」(所有者：さいたま市、所在地：さいたま市緑区大字三室2015、2016)は、遺跡の内容とともに、良好な保存状態などが高く評価され、平成27年3月、埼玉県の史跡の指定を受けました。なお、さいたま市の指定は県指定に伴い、解除となりました。

●サクラソウ見学会を開催しました

国指定特別天然記念物「田島ヶ原サクラソウ自生地」で、平成27年4月10日(金)、多くの方にご参加いただき見学会を開催しました。見頃を迎えたサクラソウやノウルシ、ヒキノカサ等、希少種を含む様々な植物を観察しました。

自生地は大正9年(1920)、日本で最初に指定された天然記念物の1つで、昭和27年(1952)には特別天然記念物に指定され、屋久島のスギや北海道のマリモと同じように大変貴重な文化財です。しかし近年、周辺環境が大きく変化するなどの課題を抱えており、保護の取り組みを進めています。

自生地ではサクラソウの開花期だけでなく、250種の植物が自生し、季節を通して楽しめます。季節の植物の開花情報は、さいたま市のホームページでお知らせしていますので、ご活用ください。



●市指定無形民俗文化財「南部領辻の獅子舞」の公開が行われました

平成27年5月17日(日)、南部領辻の獅子舞の公開が行われました。笛や太鼓、ささらが奏でる美しい音色に合わせ、三頭の獅子は、天に昇り、地を這うように舞います。かつて見沼に住んだと伝わる竜が蘇ったかのような激しく勇壮な舞です。この舞は、平安時代の武将で笛の名手、源義光が、奥州合戦で苦戦する兄源義家を助けに駆けつける途中、この地で舞を披露し、兵士を鼓舞したことがルーツと言われます。当日は、市内外から多くの見学者が訪れ、皆様はその勇壮さに目を奪われ、勇気を与えられた印象でした。



さて、夏本番、市内では、無形民俗文化財等の公開が目白押しです。秋葉ささら獅子舞、田島の獅子舞、深作のささら獅子舞、何頭もの眠れる獅子たちも夏の目覚めを控え、力を蓄えていることでしょうか。獅子舞が今日まで継承されるには、幾多の苦難があったはずですが、伝統を絶やしたくない地元の方々の熱意は、時を経ても受け継がれ、今日の我々に勇気や感動を与えてくれます。東京オリンピックが近づくにつれ、「クールジャパン」のフレーズをよく耳にするようになりましたが、さいたま市にも確実に全国に誇れるクールな伝統文化があります。「クールサイタマ」で元気を貰い、暑い夏を乗り切りましょう。

さいたま市内指定文化財等公開カレンダー 平成27年7月から9月まで

市内各地で開催される行事で指定文化財が公開されるほか、「見沼通船堀閘門開閉実演」や「最新出土品展」を文化財保護課主催で予定していますので、ぜひお出かけください。見学や公開に関する詳しい内容は、さいたま市ホームページをご覧ください。文化財保護課(048-829-1723)までお問い合わせください。天候によっては、中止や延期の場合があります。

| | 名 称 | 日 時 ・ 場 所 ・ 内 容 |
|----|------------------|--|
| 1 | 秋葉ささら獅子舞 | 7月11日(土) 10時から 秋葉神社(西区中釘818)・永昌寺(西区中釘1698) 10時に中釘自治会館を出発し、11時50分頃秋葉神社境内で、16時より永昌寺三尺坊で披露します。また、8月22日(土)19時45分から滝沼川第2遊水地(西区指扇4406)で開催される「指扇まつり」でも公開します。 |
| 2 | 宿の祭ばやし | 7月11日(土) 14時から 大久保神社(桜区宿69) 大久保神社周辺で公開される祭囃子で、宿地区を神輿と共に巡行します。祭りの終盤には、塚本、五関のお囃子と競演があります。 |
| 3 | 神田の祭りばやし | 7月11日(土) 14時30分から 八雲神社(桜区神田550) 江戸神田囃子の系統の五人囃子で、八雲神社から神輿とともに、月読社をはじめ神田地区内を巡行します。 |
| 4 | 田島の獅子舞 | 7月11日(土) 16時から 田島氷川社(桜区田島4-12-1) 3頭の獅子が笛の音にあわせ、太鼓を打ちながら優美に舞います。 |
| 5 | 駒形の祭ばやし | 7月12日(日) 12時から 須賀神社(緑区中尾1430-3) 須賀神社周辺で公開される祭囃子で、駒形地区を神輿とともに巡行します。宵山(前日の夜)には、お囃子に合わせオカメ・ヒョットコや獅子舞も披露します。 |
| 6 | 砂の万灯 | 7月19日(日) 16時から 八雲神社(見沼区東大宮1-13-9) 7組の万灯組が、悪疫退散等を祈願して各組の万灯を境内に並べます。夕方には万灯に火が灯され、昼間とは異なる風情が楽しめます。 |
| 7 | 浦和まつり | 7月20日(祝) 14時40分から 中山道浦和宿(浦和区仲町他) 浦和木遣保存会が、旧中山道を八雲神社から調神社まで、木遣歌を歌いながら歩きます。また、駒形の祭ばやし、宿の祭ばやし、神田の祭りばやしも参加します。さらに、「仲町獅子王祭獅子頭」(市指定有形民俗文化財)を仲町御酒所にて公開します。 ※お問い合わせ (社)さいたま観光国際協会(☎048-647-8338) |
| 8 | 氷川女體神社の名越祓え | 7月31日(金) 15時から 氷川女體神社(緑区宮本2-17-1) 悪疫退散、健康を祈願する夏越しの行事で、人型に切った紙を川へ流し、穢れを取り除いた後、マコモで作った大きな輪を歩いてくぐります。 |
| 9 | 指扇の餅搗き踊り | 8月22日(土) 17時45分から 滝沼川第2遊水地(西区指扇4406) かつて指扇地区内の家の庭で行われた餅搗き踊りです。曲芸のような動作をしながら餅を搗く「曲搗き」等を披露します。 |
| 10 | 深作ささら獅子舞 | 8月22日(土) 19時から 深作氷川神社(見沼区深作2-15-4) 3頭の獅子と天狗による舞を行い五穀豊穡等を祈願します。境内の四本柱を立てた土俵で行う、動きの激しい舞です。 |
| 11 | 見沼通船堀閘門開閉実演 | 8月26日(水) 第1回10時から 第2回13時から(それぞれ1時間半程度) 見沼通船堀東縁閘門 一の閘・二の閘(緑区大間木、下山口新田) 国指定史跡「見沼通船堀」の東縁で実際に水位を調節し、船を浮かべます。「見沼通船舟歌」(市指定無形民俗文化財)を踊りとともに公開します。 |
| 12 | 岩槻の古式土俵入り(笹久保地区) | 9月13日(日) 15時から 篠岡八幡大神社(岩槻区笹久保810) 5歳児から小学生までの子どもたちが、化粧回しを身につけ、古くから伝わる土俵入りの型を演じます。子どもの健康、安全を祈願して行います。 |
| 13 | 最新出土品展 | 平成26年度を中心に、市内各所で発掘した出土品や、調査の様子を展示します。(9月から12月にかけて、市内の博物館・区役所等で巡回展示します。) 9月8日(火)～9月23日(水) 9時～16時30分 さいたま市立博物館 特別展示室 |

さいたま市文化財時報

第57号

平成27年6月30日

《編集・発行》

さいたま市教育委員会 生涯学習部 文化財保護課
☎330-9588 さいたま市浦和区常盤6丁目4番4号
☎048-829-1723 ☎048-829-1989
<http://www.city.saitama.jp/>